

本構想は、本市特有の資源であり、地域の誇りとして根付いている「伊豆市のわさび」をキーワードとし、農林水産業者、市民、観光業、行政等の立場が異なる多様な主体が目指す姿を共有することで、人や地域の連携と役割分担のもと、一丸となって魅力ある「わさびの郷」の形成と地域活性化を目指していくものである。

本市は、豊かな自然に恵まれるが、人口減少や地域産業の衰退などが問題となっている。一方、交通ネットワーク整備や本市特有の資源が高く評価されたことを契機に国内外からの来訪者や移住者の増加が期待されている。この機会を逃さず、魅力と活力あふれる地域を目指し、独創的で戦略的な地域振興策を展開していくものである。

基本理念

わさびで人と自然と文化を繋ぎ、伊豆市の力を引き出す

構想の位置付け

本構想は、市政運営の中長期的指針である「第2次伊豆市総合計画（2016～2025年）」を上位計画とし、「静岡県経済産業ビジョン（2018～2021年）」や「静岡水わさびの伝統栽培世界農業遺産保全計画」等と整合を図るものとする。

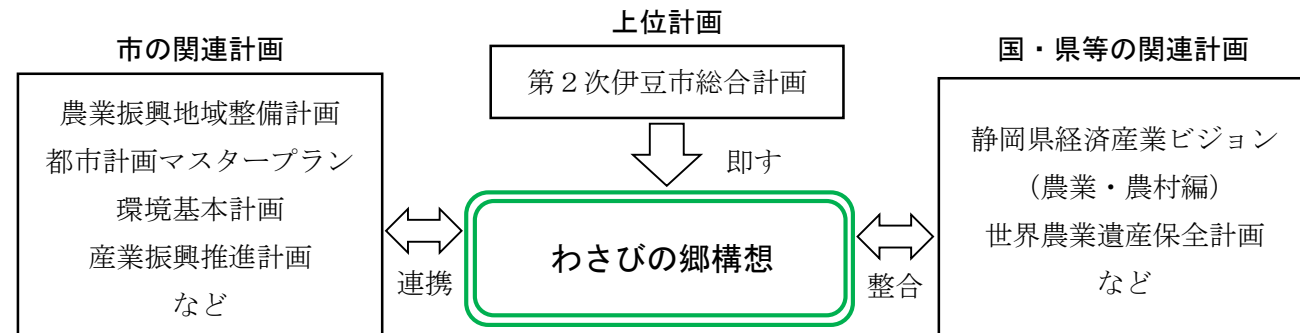


図 構想の位置付け

構想の推進について

(1) 構想の期間

構想の期間は10年間（2019年度～2028年度）とし、概ね5年で中間見直しを実施する。

(2) 取組の実施期間

構想に定める取組は短期（概ね2年未満）、中期（概ね5年未満）、長期（概ね5年以上）に分類し、実施期間を定める。

(3) 構想の推進体制

構想の推進にあたっては（仮称）伊豆市わさびの郷構想推進協議会の設立により、個々の活動を実施する多様な主体が一堂に会し構想に掲げる将来像や目標をもち、方向性を共有することで、協力・連携のもと、「わさびの郷構想」の実現を目指していく。

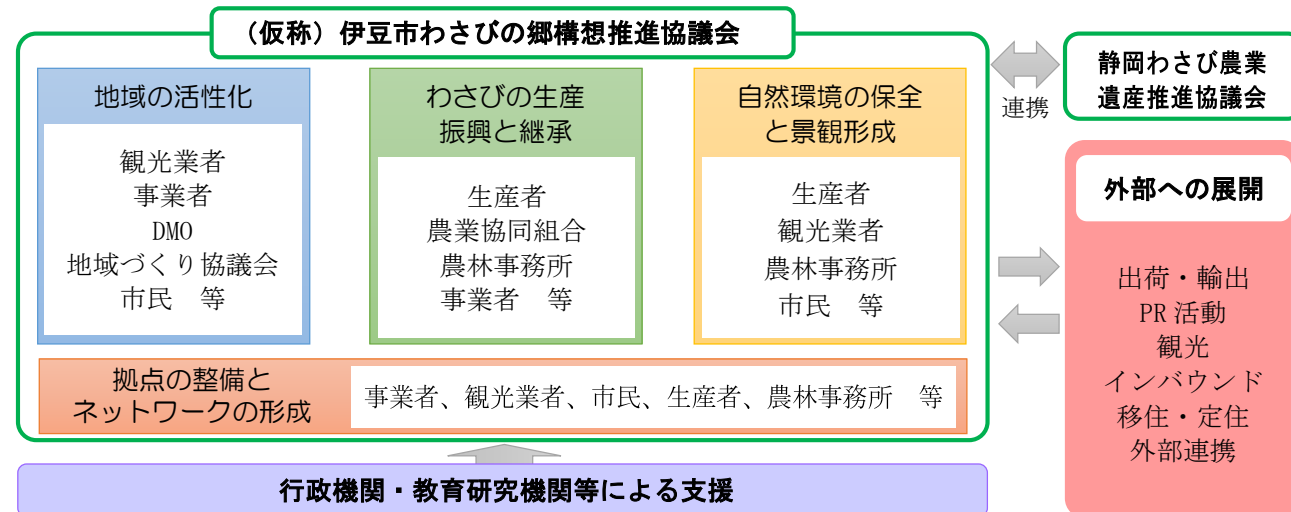


図 わさびの郷構想の推進体制図

課題の整理

ワークショップの意見、ヒアリング、アンケート調査等をもとに、以下に示す現状と課題の整理を行った。

(1) 伊豆市を取り巻く状況

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な観光資源（温泉、文学、文化） 特産品（わさび、しいたけ、海産物） 「伊豆」の知名度の高さ 世界的なブランド（世界農業遺産、ユネスコ世界ジオパーク） 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少（5年で8%減少） 高齢化（5年で5%増加） 若者の流出 産業の衰退、担い手の減少
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドの増加 東京2020大会自転車競技開催 伊豆縦貫自動車道の整備 駿河湾フェリーの存続 田園回帰の意識の高まり 豊かな自然（狩野川、天城山、海） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本人宿泊客の減少 他地域との競争 異常気象、災害の増加 全国的な少子高齢化 都市部への人口集中 地理的な制限（中山間地域・半島地域）
	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)

(2) わさびを取り巻く状況

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> 若手生産者の活力 水わさびの栽培面積日本一 ブランド力が高い 災害リスクが少ない（畑わさび） 契約栽培による安定性（畑わさび） わさびを育む自然環境 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者の高齢化（とくに土肥地区の畑わさび） 担い手や労働力の不足 苗の供給が不安定 地形による生産場所の限定 観光の受け入れ体制不備 市内での活用不足
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> 市場でのわさびの高値 和食のユネスコ無形文化遺産登録 水わさびの伝統栽培の世界・日本農業遺産登録 世界的なわさびへのニーズの高まり わさびの機能性評価 輸出拡大に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 災害によるわさび田の崩壊 鹿や猪による食害 外国産わさびの生産量増加 水耕栽培の技術向上 他地域での畑わさび生産の増加
	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)

構想の施策体系

現状の調査結果より、伊豆市やわさび生産を取り巻く課題を整理した。それらの課題に対して、4つの基本方針に基づき施策を展開していく。

課題	基本方針	施策区分	取組の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・地元飲食・宿泊業での活用や特産品開発等を担う市民等が連携しわさびを活用することが必要 ・他産地に負けないブランド力が必要 ・市民活動を促すため、わさびの魅力、文化を理解し、将来的に地域の誇りへとつなげることが必要 	<p>I 地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境で育まれる「わさび」を地域資源として活用し、温泉、歴史文化、景観とのコラボレーションにより観光地として再生・発展する。 ・豊富な海の幸、川の幸、山の幸に「わさび」を組み合わせ、伊豆市の地域食としてブランド化し、地域へ定着させる。 	<p>(1) わさびの利用促進</p> <p>(2) 市民活動の活性化</p> <p>(3) プロモーション事業</p> <p>(4) グリーンツーリズム事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加工販売や市内観光業等での利用を促進し産業の発展を図る。 ・地産地消を推進し、地域の食文化としての定着を図る。 ・学習活動により地域へ広める。市民活動を促進する。 ・地域のつながりやわさびへの愛着、誇りを高める。 ・SNSや動画といった効果的なツールを活用し情報発信を行う。 ・地域内外でイベントを実施し、人と人の交流を図る。 ・観光客の需要に対応し観光用わさび田の整備や体験活動を行う。 ・空家等を活用し移住定住促進等の取組を進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・産地の維持・発展を図るため、生産環境の改善、担い手の確保・育成等が必要 ・わさび生産の特殊性を踏まえ、生産体系を考慮した独自の対策が必要 ・世界農業遺産に認定された農業システムの理解を深め、継承していくことが必要 	<p>II わさびの生産振興と継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆市のわさび生産を守り、発展させていくため、わさびの生産体制を強化する。また、他産地に負けない品質の維持、需要に対応できる生産量を確保する。 ・世界農業遺産に認定された栽培システム、伊豆市の豊かな自然環境といった「限定性」を活用し、唯一無二のブランドを確立する。 	<p>(5) 担い手の確保育成</p> <p>(6) 基盤整備</p> <p>(7) 生産性の向上</p> <p>(8) 戦略的な販売</p> <p>(9) 技術の継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外も視野に入れ、新規就農者の確保・育成を行う。 ・多様な担い手を確保し、安定的な生産を行う。 ・ほ場の整備や農道・用水の整備等、生産の場を整備する。 ・モノレール等の近代化施設を整備し、作業環境の向上を図る。 ・苗の安定供給や病害虫対策等により生産性の向上を図る。 ・土肥地区を中心に畑わさびの生産振興を推進する。 ・消費者ニーズ*に対応した販売、ブランド力の向上を図る。 ・国内外を含む販路を拡大しつつ、戦略的な販売を推進する。 ・わさび栽培に関する技術を継承する生産者の確保と育成を行う。 ・小中学校等でのわさび栽培に関する教育を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・わさびの郷としての風格を創出するため、伝統栽培の継承と自然環境の保全等が必要 ・生産振興を図りつつ、環境保全や観光対応といった取組を推進するためのシステムが必要 	<p>III 自然環境の保全と景観形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わさびをはじめとして豊かな資源を育む伊豆市の自然環境や景観を保全し、将来へ受け継ぐ。 ・山林等の管理、防災事業等を実施することで将来の自然災害を防ぎ、生産の場や生活の場を守る。 	<p>(10) わさび田の保全活動</p> <p>(11) 周辺環境の保全</p> <p>(12) 災害の防止と対応強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の発生防止と再生、鳥獣被害*対策により農地を保全する。 ・わさび田での災害対応等を進め、再生不可能な農地の発生を防ぐ。 ・わさび田周辺の自然環境の保護や景観等に配慮した整備を行う。 ・環境保全活動に必要な体制をオール伊豆市で整える。 ・山林の適正管理、防災安全施設*の整備により災害を防止する。 ・農地や居住地といった周辺の地域環境を保全する。
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域を特徴ある機能を有する拠点として整備することが必要 ・相互発展のための地域間の交流・連携の強化が必要 ・多様な主体が目標を共有し、連携していくための体制整備が必要 	<p>IV 拠点の整備とネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わさび生産地としてのブランド力や地域の活性化を実感し、市民が愛着や誇りを持つ「わさびの郷」を形成する。 ・わさびの郷構想という目標を多様な主体が認識し、連携を通じて相互発展することを目指す。 	<p>(13) 拠点地域の整備</p> <p>(14) 拠点施設の整備</p> <p>(15) ネットワークの形成</p> <p>(16) 組織の連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わさびの郷の中心地域となる中伊豆・天城湯ヶ島地区を整備する。 ・修善寺や土肥地区の特色を活用した地域振興を推進する。 ・既存拠点の強化を図り、情報発信や地域交流、観光等に活用する。 ・わさびの郷の拠点をハード・ソフトの両面から整備する。 ・地域連携や観光活用に必要となる道路や案内施設の整備を行う。 ・周遊に対応した地域づくり、観光モデルコース等を設定する。 ・他の農業遺産地域や教育研究機関との連携を強化する。 ・協議会等の設立により関係機関が連携し構想の実現を図る。

構想図

